

◆今期間のポイント

＜主要じょう乱の概要＞

- 10日から11日は、日本付近は冬型の気圧配置が続くが、11日は冬型の気圧配置が西から次第に緩む。
- 12日は、日本の東に高気圧が移動し、日本海と本州南岸付近に低気圧が発生する。
- 13日は、低気圧が発達しながら日本の東に進み、日本付近は冬型の気圧配置となる。
- 14日は、高気圧が日本の南に張り出し、日本海が気圧の谷になる。

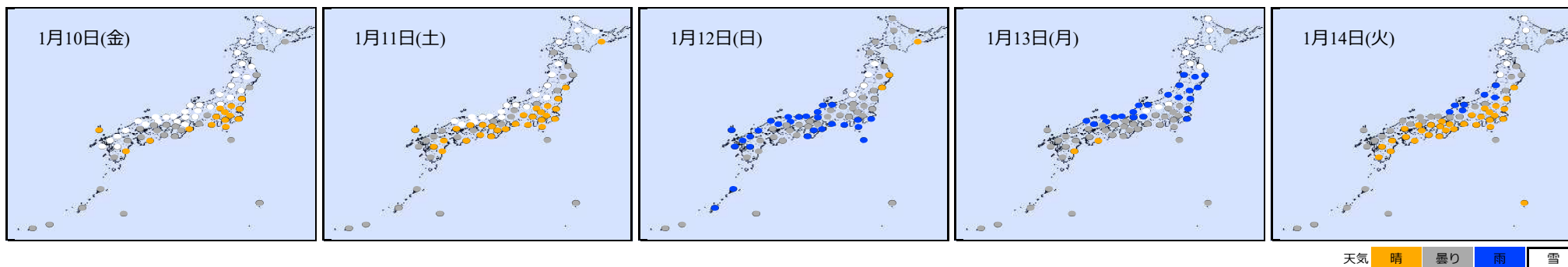
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 10日にかけて、冬型の気圧配置が強まり、寒気の程度等によっては、北日本から西日本の日本海側を中心に警報級の大雪や大しけとなるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

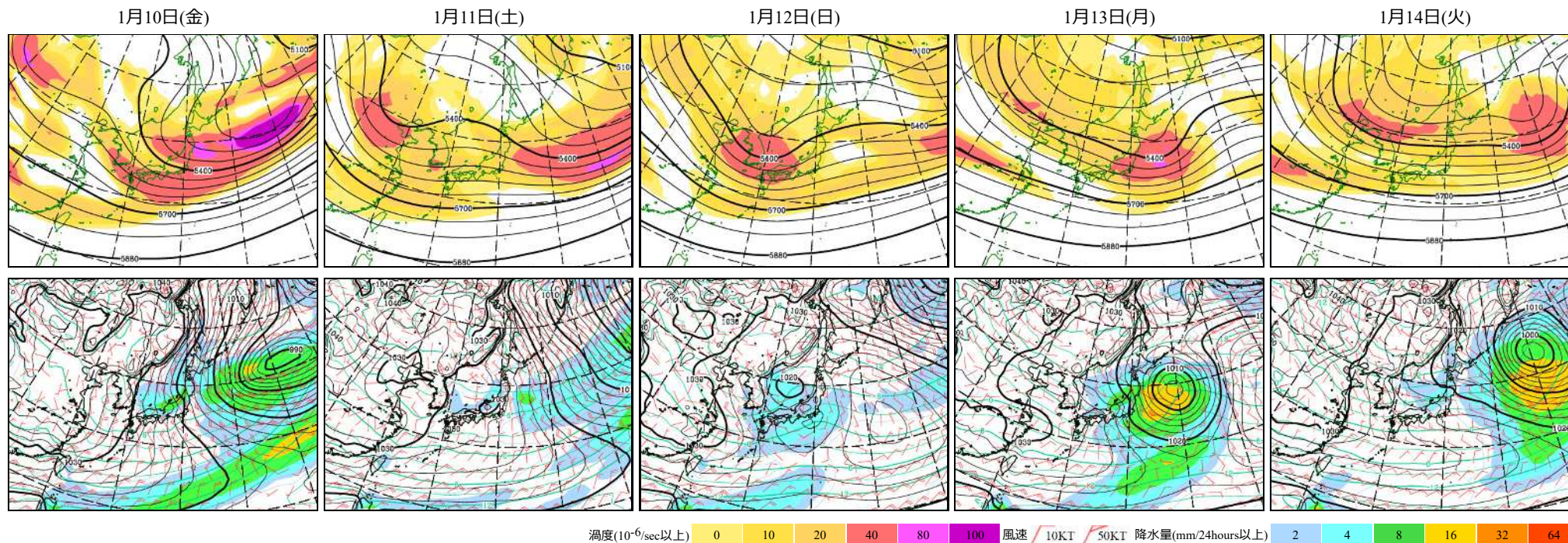
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

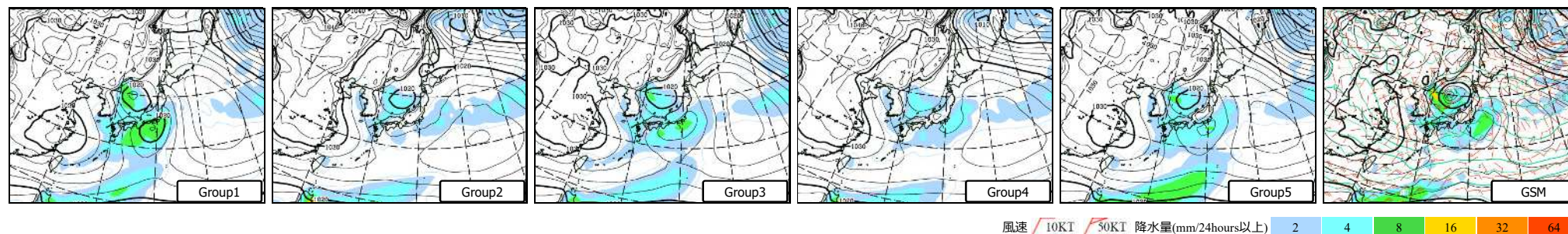


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本太平洋側は、晴れる日が多いが、12日から13日にかけては雲が広がりやすく雨の降る所がある。
- 西日本太平洋側は、晴れる日もあるが雲が広がりやすい。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆1月12日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、13日頃に日本付近を通過するトラフは、やや深くなり、東進が早くなった。地上の気圧配置の予想は、大きな初期値変わりはない。
- GSM、ECMは共に12日から13日に日本付近を進むトラフがやや深まる予想になった。NCEPは初期値変わりして、他のモデルに近い予想になった。本日の資料はモデル間の差は小さい。
- 12日は、本州南岸に低気圧が予想されるが、発達にはモデル間に差がある。ENSにはそれぞれのモデルに近い予想をするメンバーを含んでいる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。